

基本情報

指標番号
0656

名称

精神科入院症例のうち、抗うつ薬の退院処方単剤または2剤である割合

分母

主に精神疾患の治療のために入院した症例のうち、退院処方に抗うつ薬が含まれる症例数

分子

分母のうち、退院時処方に抗うつ薬の退院処方単剤または2剤である症例数

指標群

精神科

意義

向精神薬の過量処方や過量処方による副作用に対する安全性指標（プロセス指標）自殺予防の観点からも抗うつ薬などの過量処方の問題点も指摘されている。

年度

2010,2012,2014,2016,2018,2020,2022

必要データセット

DPC 様式 1,EF ファイル

指標の定義算出方法

分母の定義

1. 解析期間に退院した症例を対象とする
2. このうち、主に精神科疾患の治療のために入院した症例 最も医療資源を投入した病名の ICD-10 コードが F\$ である症例

ICD-10 コード	病名
F\$	精神および行動の障害

3. このうち、退院処方に抗うつ薬（注射薬を除く）が処方された症例。以下の薬価基準コードに相当するレセ電コードが含まれる症例。退院時処方の判定： 2010年度～2015年度：F ファイルもしくは EF ファイルにおいて、出来高・包括フラグが「1」 2016年度～：EF-17・F-19 行為明細区分情報（12桁の数値）の1桁目「退院時処方区分」が「1」

薬価基準コード7桁	成分名	漢字名称	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022
1174002	クロミプラミン塩酸塩	アナフラニール錠10mg	○	○	○	○	○	○	○
1174004	ロフェプラミン塩酸塩	アンプリット錠10mg	○	○	○	○	○	○	○
1174005	トリミプラミンマレイン酸塩	スルモンチール散10%	○	○	○	○	○	○	○

薬価基準コード7桁	成分名	漢字名称	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022
1174006	イミプラミン塩酸塩	イミドール糖衣錠(10) 10mg	○	○	○	○	○	○	○
1179001	アモキサピ ン	アモキサンカプセル10mg	○	○	○	○	○	○	○
1179002	アミトリプ チリン塩酸 塩	アミトリプチリン塩酸塩錠 10mg	○	○	○	○	○	○	○
1179004	ノルトリプ チリン塩酸 塩	ノリトレン錠10mg	○	○	○	○	○	○	○
1179005	ヒドロキシ ジン塩酸塩	アタラックス錠10mg	○	○	○	○	○	○	○
1179008	マプロチリ ン塩酸塩	ルジオミール錠10mg	○	○	○	○	○	○	○
1179012	クロチアゼ パム	クロチアゼパム錠10mg 「トーワ」	○	○	○	○	○	○	○
1179017	炭酸リチウ ム	リーマス錠100 100mg	○	○	○	○	○	○	○
1179019	ヒドロキシ ジンパモ酸 塩	アタラックス-Pカプセル25mg	○	○	○	○	○	○	○
1179023	ペモリン	ベタナミン錠10mg	○	○	○	○	○	○	○
1179027	ドスレピン 塩酸塩	プロチアデン錠25 25mg	○	○	○	○	○	○	○
1179033	ミアンセリ ン塩酸塩	テトラミド錠10mg	○	○	○	○	○	○	○
1179034	セチプチリ ンマレイ ン酸塩	テシプール錠1mg	○	○	○	○	○	○	○
1179037	トラゾドン 塩酸塩	デジレル錠25 25mg	○	○	○	○	○	○	○
1179039	フルボキサ ミンマレイ ン酸塩	デプロメール錠25 25mg	○	○	○	○	○	○	○
1179040	ミルナシプ ラン塩酸塩	トレドミン錠12.5mg	○	○	○	○	○	○	○
1179041	パロキセチ ン塩酸塩水 和物	パキシル錠10mg	○	○	○	○	○	○	○
1179046	塩酸セルト ラリン	ジェイゾロフト錠25mg	○	○	○	○	○	○	○
1179046	セルトラリ ン塩酸塩	セルトラリン塩酸塩錠25mg錠(2)					○	○	○
1179051	ミルタザピ ン	リフレックス錠15mg	○	○	○	○	○	○	○
1179052	デュロキセ チン塩酸塩	サインバルタカプセル20mg	○	○	○	○	○	○	○

薬価基準コード7桁	成分名	漢字名称	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022
1179054	エスシタロ プラムシュ ウ酸塩	レクサプロ錠10mg	○	○	○	○	○	○	○
1179055	ベンラファ キシン塩酸 塩	イフェクサーSRカプセル37.5mg			○	○	○	○	○

- このうち退院先が不明、転院の症例は除外する。2010年度～2013年度 退院先「0 不明、4 転院」を除外する。2014年度以降 退院先「4 他の病院・診療所への転院」を除外する。
- 調査対象となる一般病棟への入院の有無が「0」の症例を除く

分子の定義

- 退院時に処方された抗うつ薬の薬剤種数（成分名でカウント）が2種類以下の症例 上に示された退院時処方として、退院時処方された薬剤の成分名が2種類以下

その他

薬剤一覧の出力

いいえ

リスク調整因子の条件

指標の算出方法

分子÷分母

指標の単位

パーセント

結果提示時の並び順

降順

測定上の限界・解釈上の注意

- 薬価基準コードに対する成分名は厚労省ホームページより取得
<http://www.mhlw.go.jp/topics/2012/03/tp120305-01.html>

参考資料

参考値

- オーストラリア（ACHS）では平均値で86.4 日本の処方実態調査では、2009年データで抗うつ薬98.3

参考資料

- Australian Council on Healthcare Standards (ACHS). Australasian Clinical Indicator Report 2003 – 2010 12th Edition Mental Health Inpatient, version 6 Clinical Indicators
http://www.achs.org.au/media/3871/MentalHealthInpatient_www.pdf（2013年1月4日アクセス可能）

2. 三島和夫,片寄泰子,榎本みのり,他.診療報酬データを用いた向精神薬処方に関する実態調査研究.平成22年度厚生労働省科学研究費補助金 特別研究事業 向精神病薬の処方実態に関する国内外の比較研究分担研究方向書.2010年. <http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r9852000001tjq1.html> (2013年1月4日アクセス可能)
3. 厚生労働省.過量服薬への取り組み-薬物治療のみに頼らない診療体制の構築に向けて 2010年 www.mhlw.go.jp/bunya/shougaihoken/jisatsu/dl/torimatome_5.pdf (2013年1月4日アクセス可能)
4. 薬剤の分類について下記参照（改訂に際しては、同著者、日本精神神経学会/日本精神神経薬理学会による最新情報を随時参照のこと） Toshiya Inada et al. Psychotropic dose equivalence in Japan. *Psychiatry Clin Neurosci.* 2015; 69(8):440-7. Doi: 10.1111/pcn.12275.